

「再びベテルへ」

2021年05月10日

ヤコブは、家族および一緒にいるすべての人に言った。「あなたがたの中にある異国の神々を取り除き、身を清めて衣服を替えなさい。さあ、ベテルに上ろう。苦難の日に私に答え、私の行く道で共にいてくださった神のため、そこに祭壇を造ろう。」人々は、持っていたすべての異国の神々と、耳に着けていた耳輪をヤコブに差し出した。ヤコブはそれらをシェケムのそばにあったテレビンの木の下に埋めた。彼らが出発すると、神が周囲の町に恐れを抱かせたので、ヤコブの息子たちの後を追う者はなかった。(創世記 35 章 2 節～5 節)

ヤコブの末娘ディナが強姦されたことに怒った兄のシメオンとレビは、シェケルの男子皆に割礼を受けさせ、痛みを覚えて立てない頃、町を襲い、虐殺し、略奪した。妹を辱めたことへの報復であったが、近隣のカナン人が連合して襲撃してくると、ヤコブ一族は滅ぼされてしまう。ヤコブは逃亡せざるを得なくなった。この時、神はヤコブに「さあ、ベテルに上り、そこに住みなさい」と言われた。ベテルは、兄エサウの殺害を逃れ、石を枕にして寝た夜、神が夢に現れ、祝福を約束してくださった所である。神は、ヤコブの逃亡先は、彼の人生の出発点になったベテルであると示された。ベテルに向かうに際し、「ヤコブは、家族および一緒にいるすべての人に言った。「あなたがたの中にある異国の神々を取り除き、身を清めて衣服を替えなさい。さあ、ベテルに上ろう。苦難の日に私に答え、私の行く道で共にいてくださった神のため、そこに祭壇を造ろう。」人々は、持っていたすべての異国の神々と、耳に着けていた耳輪をヤコブに差し出した。ヤコブはそれらをシェケムのそばにあったテレビンの木の下に埋めた。」ヤコブ一族は、パダン・アラムからカナンにまで上って来た。その間、一族の者たちは異国の神々に触れ、受け入れてきた。その異国の神々を全て、払い落とす宗教浄化を決定したのである。諸々の偶像を木の下に埋め、装飾品や衣服も清め、唯一のアブラハムの神、イサクの神に立ち返り、一族の信仰を刷新した。この宗教の浄化、刷新は、周囲の町々に恐れを抱かせ、ヤコブの息子たち、剣で虐殺したシメオンとレビの後を追う者はなかった。ヤコブは、神に守られ、全ての者と一緒にルズ、すなわち彼が初めて神と出会い、不安と恐怖から立ち上がった懐かしいベテルに着いた。そこに、祭壇を築き、「エル・ベテル（神の家）」と名付けた。

時に、ヤコブの母リベカの乳母デボラが亡くなった。ヤコブを偏愛した母リベカの死についての記述はない。既に、亡くなっていたのではないか。乳母デボラは女主人リベカが愛したヤコブを案じて、旅を共にしたが、亡くなった。ヤコブは、彼女をベテルの下手の檜の木の下「アロン・バクト（悲しみの檜の木）」に葬った。

ヤコブがパダン・アラムからカナンに戻って来た時、神が再び現れ、祝福し、「あなたの名はヤコブである。だがあなたの名はもはやヤコブとは呼ばれない。イスラエルがあなたの名となる」と、ペヌエルで言われた名誉ある名が再度告げられた。そして、「私は全能の神である。産めよ、増えよ。あなたから一つの国民、そして諸国民の集まりが起こり、あなたから王たちが出る。私は、アブラハムとイサクに与えた土地をあなたに与える、また、あなたに続く子孫にこの土地を与える」と語られた。神はヤコブを離れて天に昇って行かれた。ヤコブは、神が自分に語られた場所に、一つの石の柱を立て、その上に供え物を注ぎ、油をかけ、ベテルと呼んだ。ベテルは、ヤコブの出発点、そして、帰って来る所であった。それは、神が共にいて、祝福してくださるという証しの場であった。